

(様式6-A)

石原 宏一 氏から学位申請のため提出された論文の審査要旨

題 目 Prognostic factor of emergency patients aged 90 years and older.
(90歳以上の救急患者の予後因子)

Acute Medicine & Surgery (日本救急医学会 英文雑誌) (in press)

Koichi Ishihara, Shuichi Hagiwara, Makoto Aoki, Masato Murata,
Minoru Kaneko, Masahiko Kanbe, Kiyohiro Oshima

【論文の要旨及び判定理由】

社会の高齢化に伴い救急搬送症例も高齢化している。なかでも90歳以上の超高齢者に関しては治療方針決定に難渋することが多い。石原らは、90歳以上の救急患者に対する治療方針決定の一助とすべく、救急外来到着時の全身状態と予後との関連を評価した。2006年1月から2013年9月の間に当院救急外来を經由して救急部に入院した90歳以上の症例を対象とし、対象を当院から退院あるいは転院できた群 (A群) と当院で死亡した群 (B群) の2群に分けた。来院時の全身状態および血液検査を2群間で比較検討した。また、その結果を用いて、予後予測に関するパラメーターも検討した。58名の患者がこの研究に該当した。平均年齢は 93.2 ± 3.4 (90~106) 歳であった。45名 (77.6%) が生存して退院あるいは転院でき (A群)、13名 (22.4%) が入院中に死亡した (B群)。入院の契機となった疾患は2群間で差はなかった。入院前から自立歩行不可であった患者の割合はB群で有意に高かった (A群:6.7%、B群:61.5%、 $p < 0.0001$)。来院時の平均動脈圧、Glasgow Coma Scale (GCS)、 PaO_2/FiO_2 比および血清アルブミン値はA群で有意 ($p < 0.05$) に良好であった。多重ロジスティック回帰分析では、入院前自立歩行不可 {オッズ比 (OR) : 22.4、95%信頼区間 (CI) : 4.4-113.1、 $p < 0.0001$ } と来院時のGCS (OR : 7.0、95%CI : 1.8-27.7、 $p = 0.003$) が予後因子として有益と考えられた。以上より自立歩行不可とGCSは90歳以上の救急症例において最も鋭敏な予後予測因子であり、90歳以上の救急症例で、入院前の自立歩行不可や来院時意識状態不良な症例で

(様式6, 2頁目)

は良好な予後は望めない可能性が高い事が認められた。

本研究の結果は90歳以上の救急症例に対する治療方針を決定する上で有用な知見と考えられ、博士（医学）の学位に値するものと判定した。

(平成26年2月5日)

審査委員

主査	群馬大学教授（医学系研究科） 顎口腔科学分野担任	横尾 聡 印
副査	群馬大学教授（医学系研究科） リハビリテーション医学分野担任	白倉 賢二 印
副査	群馬大学教授（医学系研究科） 総合医療学分野担任	田村 遵一 印

参考論文

1. Usefulness of fibrin degradation products and d-dimer levels as biomarkers that reflect the severity of trauma. (外傷患者のバイオマーカーとしてのDダイマーとFDPの有用性)

J Trauma Acute Care Surg. 2013 May;74(5):1275-8.

Hagiwara S, Oshima K, Aoki M, Murata M, Ishihara K, Kaneko M, Furukawa K, Nakamura T, Ohyama Y, Tamura J.

2. Survival after 385 min of cardiopulmonary resuscitation with extracorporeal membrane oxygenation and rewarming with haemodialysis for hypothermic cardiac arrest

(偶発性低体温による心肺停止患者に対して、経皮的な心肺補助装置及び血液透析併用し385分の心肺蘇生を行った救命例)

Resuscitation 82:790-791, 2011.

Hagiwara S, Yamada T, Furukawa K, Ishihara K, Nakamura T, Ohyama Y, Tamura J, Oshima K.

(様式6, 3頁目)

最終試験の結果の要旨

我が国における人口動態と救急搬送の関連について
Glasgow Coma Scaleの問題点について
試問し満足すべき回答を得た。

(平成26年2月5日)

試験委員

群馬大学教授 (医学系研究科)
臓器病態救急学分野担任

大嶋 清宏 印

群馬大学教授 (医学系研究科)
顎口腔科学分野担任

横尾 聡 印

試験科目

主専攻分野 臓器病態救急学 A

副専攻分野 顎口腔科学 A